

発表：Aグループ

現在地建替型：『色々な世代が来てくれる図書館』

- 子どものうちからいろいろな体験を行う図書館。(例：伊万里市民図書館では、子どものうちから図書館職員の体験を行うというイベントも行っている。)
- 乳幼児や親子が楽しめる、声を出しても大丈夫なスペースを確保する。
- 中高生が気軽に楽しめる雰囲気も大切。
- 木を使ったあたたかみのある図書館があれば、利用者がホッとできる環境が実現できる。
- デジタル化を進めることで、図書館職員の負担が減り、便利な図書館になる。
- 人の目を引くことで色々な世代の方が来てくれる図書館が実現する。

現本館リノベーション・民間テナント型：『気軽に立ち寄れる図書館』

- 閉架を本館から移すことで、大幅なスペースの圧縮をすることが出来る。
- 移す本は、既存の学校の跡地などを利用する。
- 開館時間を延ばしたり、閉館日を少なくする。
- スタッフを充実させ、何でも聞ける図書館を目指す。
- 認定司書を設置し、コンシェルジェのような役割を担うことも必要。
- ハードが削られた分はソフト面を充実させることで良い図書館になる。

Aグループ発表者様

発表：Bグループ

現地建替型：(テーマ設定なし)

- 各世代が集える図書館をコンセプトにした。
- 若者を受け入れるための施策をどうするかが今後の課題。
- 駅前立地を検討して欲しい。駅の東側の立地では、駅の西側の人の利用が少なくなってしまうというのがあって、将来的にみんなが利用するためにはどのようにすればいいのか検討することが大切。
- 県内の良い図書館を分析し、たたき台を作って、市民の皆さんにもっと意見を貰うことが必要。

現本館リノベーション・民間施設テナント型：(テーマ設定なし)

- 集会室が今でも狭いことから、なかなか若者の受入れが出来ない。
- 移動書架の導入や、貸出カウンターを1か所に集約。
- リノベーションで考えていくのであれば、このワークショップのような場を再び設けてもらいたい。

Bグループ発表者 様

発表：Cグループ

現在地建替型：『何かと出会える図書館』

- 全世代に対応できる図書館
- 授乳室・ベビールームや中高生の学習スペースを削らない。
- 蔵書が増えるように、地下の書庫を大きく取るべき。

現本館リノベーション・民間施設テナント型：『本との出会いをもっと増やそう!!!』

- 蔵書は減らしたくない、閲覧スペースは残したい。
- どのような図書館の規模であっても本だけは減らさないで欲しい、滞在できるスペースを残してほしい。
- IC化を進めて本を増やす。
- 本との出会いをもっと増やしたい。
- 図書館と言えばやはり“本”。



Cグループ発表者 様